

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 東山小 学校 学級数 18

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

進んで考える子

**A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する**

**B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる**

**C 校内研究の進め方を見直す**

**D 授業公開や外部への公開・発信を生かす**

## 取組の概要

- 1 取組のきっかけ  
 昨年度の学校評価によって、学力の向上を目指す本校の重点教育目標「進んで考える子」の取り組みについての課題が明らかになった。  
 そのため、東山小の合い言葉「**①** **か** **し** **や** **ま**」を新たに設定し、各教科・領域等に配慮し、調和のとれた教育を行うことを確認し、全校的に取り組んでいる。
- 2 取組の位置付け  
 学校全体で確認し、地域・保護者・児童に周知して、全校で調和のとれた教育の改善充実を進めている。
- 3 取組の方法
  - (1) 基礎・基本の定着
    - ◎ 基礎的・本指の学習内容の確実な定着を図る。  
 → 学習の指導計画の作成と「伝え合う力」を育む授業の展開  
 → 繰り返し指導の活用、少人数指導など個別に合わせた指導  
 → T指導の効果を高めるための学習・宿題等でのチャレンジテストの活用
    - (2) 学習習慣の定着
      - ◎ 家庭学習の支援計画の作成と家庭学習の取組への支援  
 → 各家庭段階での学習状況に応じた「家庭学習の手引き」の提供、活用、宿題・家庭学習活動の充実  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進
      - (3) 読書活動の推進
        - ◎ 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進
        - (4) 読書活動の推進
          - ◎ 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進
          - (5) 読書活動の推進
            - ◎ 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進
            - (6) 読書活動の推進
              - ◎ 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進  
 → 読書活動の推進

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

(1) 基礎・基本の定着を図る指導計画の作成に取り組んだ。繰り返し指導や少人数指導など個に応じた指導を行った。

(成果) →

- |  |
|--|
| ①各学年で、スムーズに児童に力が付いた学習のうまくできた方法、手立てや取組<br>②うまく力が付かなかった学習に講じる手立て |
|--|

- ・上記①②について各学年で交流し、年間指導計画に添付する。
- ・交流したところやチャレンジテストを活用し、年間指導計画や3学期のまとめに生かされている。
- ・T・Tによる習熟度別学習を行うと同時に、「学びの教室」を開設し、中・昼休み等に利用した児童の学習内容の理解が深まった。

(2) 家庭学習習慣づくりの取組

(成果) → 「家庭学習の手引き」により家庭学習習慣が高まってきた。

(3) 朝読書やすきま読書の推進 (4)

(成果) → 毎週水曜日の朝読書、すきま読書を行い、読書に親しんでいる。

(4) 問題解決的な学習の基本的な流れを教室に掲示し、ノートにも問題解決の流れがわかるように全校で統一して取り組んだ。言語活動の充実を図るために「話形」を教室に掲示し、話す聞く名人を目指した。自分の言葉で書く事や話すことを意識した授業を行った。他に、学習に集中できるように机上整理についても共通理解を図った。また、「校内研修で思考を促す学習課題」、「関わり合いを持つ支援」、「主体的に表現し学び合う場の設定」を全学級で公開授業を行っている。

(成果) → 問題解決的な学習に慣れてきており、児童に自分で考え解決しようという意欲の高まりが見られ、児童の学習に対する集中力も高まってきている。

(5) 総合的な学習の時間の指導計画に情報教育を1年間の指導の流れの中に位置付けた。また、情報モラルについても情報教育の全体計画を確認し合い、3年生以上で各段階に合わせて計画的に指導できるように位置づけた。

(成果) → 高学年は、PCルームでのジャストスマイルにパスワードを設け、セキュリティ意識や他者作成のもの改ざん等、モラルを意識するようになってきている。

### ○ 教育課程検証の方法

- ・年間指導計画「H24東山プラン」の朱書きの具合をチェックした。単元一覧表と合わせて学年毎に検討の上、適切な単元配置や時数設定を図り、児童の苦手とすることを学校全体で共通理解し、今後の授業改善や補充学習の進め方等を探る。
- ・①各学年でスムーズに児童に力が付いた学習のうまくできた方法についての手立てや取組や②うまく力が付かなかった学習に講じる手立てについて、学年で話し合っ検証し、次年度の指導計画の中に反映した。
- ・企画評価委員会を提案し、学校評価を行う際に学校の取り組みや課題についての児童アンケートを実施し、内部評価、保護者の評価と合わせて検証した。結果は集約し、学校便りで保護者に伝えた。